

令和4年度 障がい者相談支援事業 報告

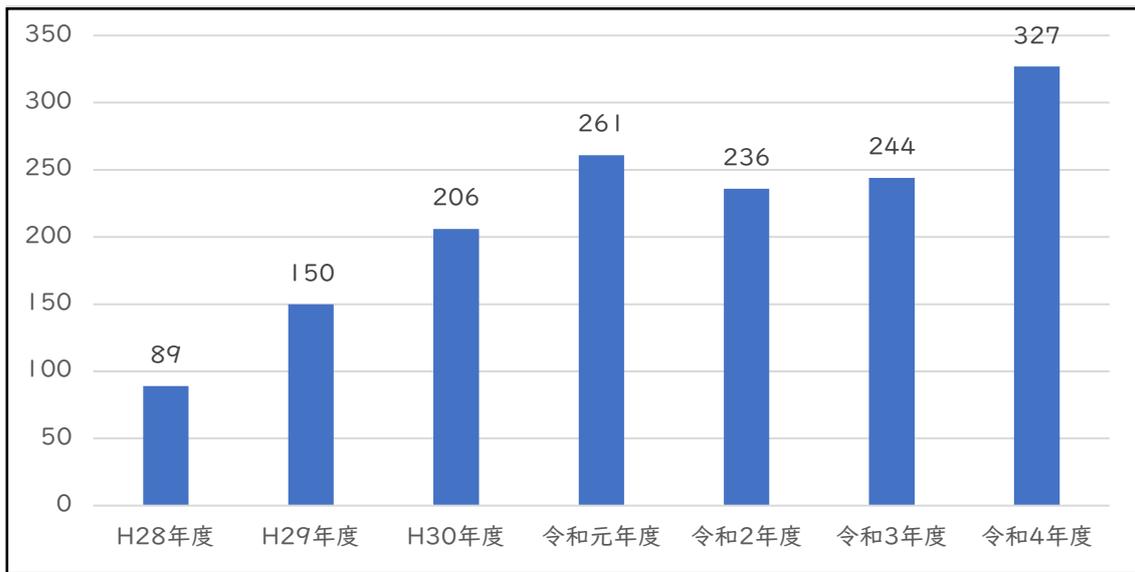
(西地域) 芦屋市社会福祉協議会

(東地域) 三田谷治療教育院

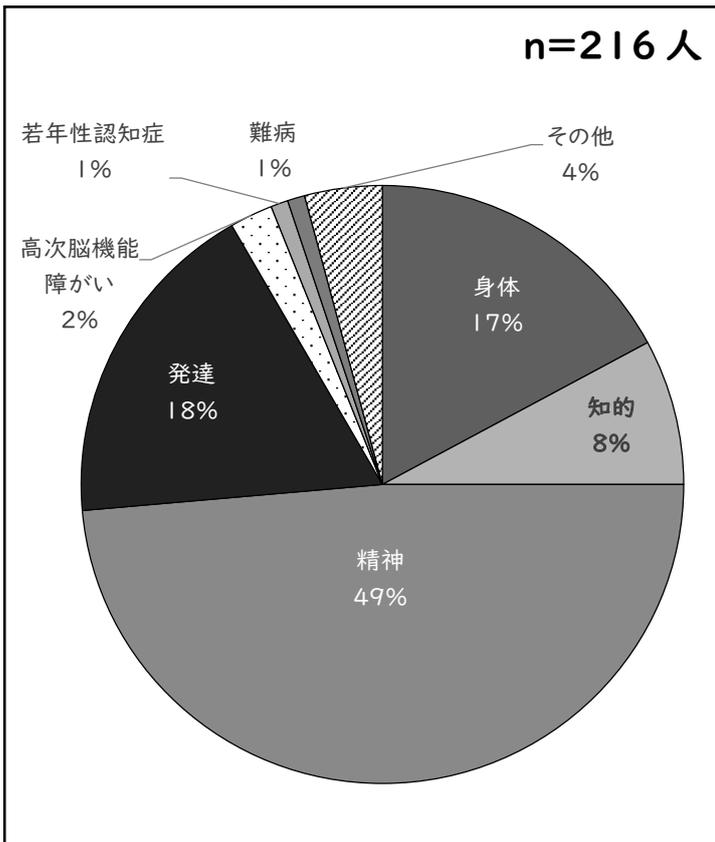
芦屋メンタルサポートセンター

◆令和4年度相談内容について

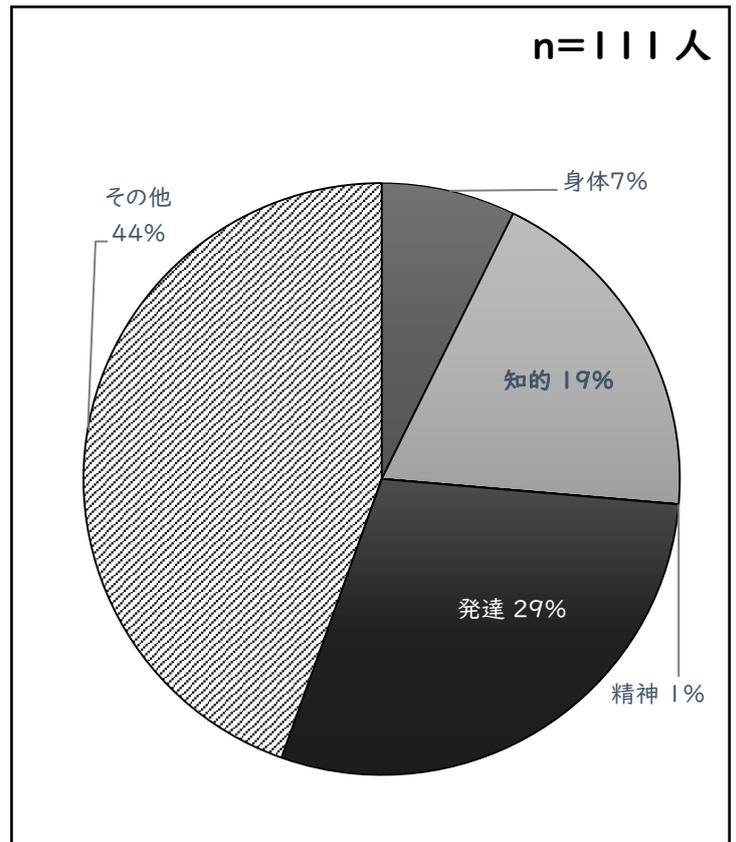
(図1) 新規相談件数の推移



(図2) 障がい種別割合(成人)



(図3) 障がい種別割合(児童)



◆令和4年度実施計画の振り返り

① 相談スキルの向上

- ・複合化した問題のある相談に対応できるよう、研鑽に励む。
- ・医療的ケア児やひきこもり等、専門性が求められる相談に対応しうる知識、援助技術を習得する。

- ・各々の相談員の法人会議で、また相談員同士でケースの相談をしあい、日常的なフォローアップ体制がとれている。
- ・ひきこもりに対する支援者プログラムのCRAFTや、高次脳機能障がい等の研修に参加した。
- ・若年性認知症ネットワーク会議に参加した。

② 関係機関との連携強化

- ・対象を個人のみならず世帯として捉える多角的な視点を持ち、関係機関と支援目的や役割、課題を共有して重層的に関わっていく。
- ・コロナの影響による離職・収入源で生活困窮に陥った人に対し、自立相談支援事業や家計改善支援事業などの関係機関と連携して対応していく。

- ・高齢者生活支援センター等とはケース対応等で引き続き連携が取れており、よりスムーズに適切な対応が行えるようになっている。
- ・保健師と相談支援連絡会で共同開催の研修があり、互いの業務範疇や内容について理解が深まったため、連携しやすくなった。
- ・転居に伴う住居探しの必要があるケースが数件あり、県社会福祉士会とやり取りしながら進めることが出来た。
- ・お金の使い方、家計管理の仕方が難しいケースについて、家計改善支援事業に相談した。
- ・高次脳機能障がい、若年性認知症のケースについて、医療機関、通所先の事業所、高齢部門、就業・生活支援センター等の多くの関係機関と連携し、内容の濃い対応が出来た。

③ 地域課題の抽出

- ・相談支援の入り口機能として既存の社会資源に繋がりにくいケースを通し、それらを地域課題として自立支援協議会や実務者会に報告をする。
- ・初回相談の内容をサービス種別や障がい特性、性別など詳細に内訳し、分析して地域課題を抽出する。

- ・計画相談の待機状況がこれまでで最も長くなっているため、他市の事業所へ依頼をかける等して対応している。
- ・初回相談の内容を分析し、自立支援協議会本会議での報告を行った。
- ・実務者会の座談会に参加し、地域課題を共有した。

◆令和 5 年度 実施計画

①当事者・家族・関係機関への周知

- ・障がい全般に関する相談窓口としてより広く周知していくために広報活動を行う。

②関係機関との連携強化

- ・ひきこもり、8050 問題、高次脳機能障がいなどにより複合的な課題へと進展しやすいケースに関して、各関係機関と連携を行い、相談者の状況に合わせた支援を行う。
- ・重層的支援の観点から、「制度の狭間」にあるケースに関しても地域の社会資源を活かして対応していく。

③地域課題の抽出

- ・対応した相談に関して、その経路や内容など、内訳を詳細に分析し、地域課題を抽出していく。